

令和7年度

第3回 弱視教育指導者研修会 後期オンデマンド講座 報告

令和7年10月下旬から令和8年1月末まで、後期オンデマンド講座として、視覚障害の特性に配慮した各教科の指導や、自立活動の目標を達成するための具体的な指導について、盲学校での実践等を基に6本の動画を作成し、配信を行いました。府内の小・中学校、特別支援学校教職員、26名の申込がありました。

動画内容の紹介

【自立活動の指導のヒント】

- 1-1 手指の操作、目と手の協応～教科学習編～
- 1-2 手指の操作、目と手の協応～日常生活編～
- 2 環境を認知して歩く～歩行を支える基礎的な力について～
- 3 拡大読書器の基本指導
- 4 観察、体験～視経験を豊かにする～

【教科指導のヒント】

- 1 英語～教材と指導法の工夫～

1-1 「ひも結び」

1 見えにくさへの配慮
【ひも結びの手順がわかりやすい教材(*)の作成】



黒地を背景に左右のひもの色を変えて、コントラストを付ける
どちらのひもを操作すれば結べるのかがわかりやすい
(*「教材・教具」については、本動画中では「教材」で統一しています)

(3) 拡大読書器の基本指導について

①指導の前に

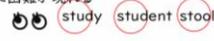
- ・見え方について把握する(視力、最大視認力、視野、色覚、羞明など)
- ・設置場所の確認(可動テーブルの動き、明るさへの配慮など)
- ・画面の高さや位置など、姿勢の確認



✕ 画面が高すぎる ○ 画面が視線の高さ

視覚障害の特性と英語学習への影響

(2) 視覚障害による英語学習への影響
英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」
特に「読む」「書く」に困難が現れる



「読む」

- ・細かな文字、低コントラスト/情報量の多い図やイラスト
- ・日本語と英語の違い
- ・フレーズの認識に時間がかかる
- ・大量の文字情報の処理

視聴者アンケートより (一部抜粋)

- ・弱視の児童生徒がどのようなことで困るのか、どんなことに注意して対応していくべきなのか、道具の使い方など、指導のヒントを得ることができた。意識はしているつもりでも、研修を受けることであらためて確認できることや気づくことがあり、今後の指導に向けて貴重な時間となった。
- ・学習に使用する道具の指導は教科指導が始まる前にやっておくこと、見えにくい定規の目盛りをうまく使えるように0のところにストップをつけることなど、じっくり考えるとその通りではあるのに「なるほど!」と思う具体的な支援がたくさんあった。
- ・見えにくさに配慮した指導や工夫の数々、勉強になった。ボディイメージの形成については、弱視の子どもでなくとも指導に生かせると感じた。
- ・中学校進学も見据えて、アルファベットを丁寧に指導すること、教材の工夫などについて学ぶことができた。具体例が多くあり、大変勉強になった。